ロームシアター京都
ROHM Theatre Kyoto

プレスリリース

平成 30(2018)年 1 月 14 日　報道発表資料
［本リリース発信元］ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)　広報担当:松本、長野

報道関係者各位

本日開幕！文化庁メディア芸術祭京都展　「Ghost（ゴースト)」

本日 1 月 14 日より、ロームシアター京都を会場に文化庁メディア芸術祭京都展「Ghost(ゴースト)」が開幕いたしました。文化庁メディア芸術祭の歴代受賞作品 15 点と、本展のための作品 2 点(高嶺格、髙橋耕平)を加えた合計 17 作品を展示します。「Ghost(ゴースト)」をテーマとした、京都展のオリジナリティあふれる企画展です。ご期待ください！

文化庁メディア芸術祭京都展「Ghost(ゴースト)」特設WEBサイト　http://mediaarts-kyoto.com

【開催概要】
開催期間:2018 年 1 月 14 日(日)～2 月 4 日(日)［22 日間］
開催時間:午前 10 時～午後 7 時(火曜日は午後 1 時～午後 7 時)
会　　場:ロームシアター京都　ノースホール、プロムナード、共通ロビー、ミュージックサロン
※ノースホール:1 月 14 日(日)～25 日(木)の 12 日間。1 月 14 日は午後 5 時から、25 日は午後 5 時まで。
ミュージックサロン:1 月 14 日(日)～1 月 21 日(日)の 8 日間。
入 場 料:無料、申込不要

■テーマ
Ghost(ゴースト)
～メディアアートが"劇場"に彷徨(さまよ)う～
メディア･テクノロジーの進展によって、時間や空間のギャップは飛躍的に埋められ、人々の生活や社会は大きく変容してきた。その一方で、物事の要約化、概念化を進行させることが、事物を捉える際に様々なものを捨象させているとも言える。本来は、そうして捨象されたものも含めた全体が"世界"であり、それを感じるために備わっている人間の能力があるのではないか。それは"想像力"である。人間の想像力が生み出したもののひとつに、幽霊(ゴースト)がある。幽霊は現在≪いま≫という時制、そして実際の空間を超越して存在し、それ自体に実体を持たない。逆に言えば、それは想像力を喚起させるメディア(媒介装置)とも言える。今回の文化庁メディア芸術祭京都展では、「Ghost(ゴースト)」という概念をテーマに、想像力を喚起させる場としてのメディアを提示することで、実在／不在の人間の姿を探っていく。

広報用画像等の提供が可能です。ご希望の場合は以下までご連絡ください。
［お問合せ先］ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)　担当:松本、長野
電話:075-771-6051(9:00～17:00) FAX:075-746-3366　E-mail: press@rohmtheatrekyoto.jp

本展のための作品２点（高嶺格、髙橋耕平）作品詳細が決定！

文化庁メディア芸術祭京都展「Ghost（ゴースト）」のための作品 2 点の詳細が決定いたしました。いずれも初めて発表される作品となります。

作品の漂流／髙橋耕平
Drifting of the work / TAKAHASHI Kohei

エリア：1Fピロティ（屋外）

［インスタレーション・日本］

髙橋耕平は、観察、実演、対話、共作等の方法を通した映像インスタレーションにより、個人と歴史、個人と公的なものとの関係を作品化する。今作では、現在進行中の京都市美術館の再整備をめぐり、公的な作品コレクションにおける収蔵・保存・公開の在り方とその意味がテーマとなる。作品のない美術館の建物、中身のない作品ケース、声として提示される作品データは、「作品の実体」とは何かを問い続けるのである。

※本作の展示場所は当初予定していた2F共通ロビーから1Fプロムナードへ移動となりました。
※作品は 2 か所での展示となります。
「作品の漂流　-起動の前後で」　展示場所：ロームシアター京都　ピロティ
「作品の漂流　-京都市美術館所蔵の作品について」　展示場所：京都市美術館　敷地西側（神宮道沿い）

髙橋耕平　TAKAHASHI Kohei

1977 年　京都府生まれ。近年の主な展覧会に「パズルと反芻　“Puzzle and Rumination”」（Island MEDIUM、NADiff a/p/a/r/t、JIKKA、東京、2012　年）、「HARADA-san」（Gallery　PARC、京都、2013）、個展「史と詩と私と」（京都芸術センター、京都、2014　年）、Imitator2（MART、ダブリン、アイルランド、2014　年）、「ほんとの　うえの　ツクリゴト」（旧本多忠次邸、愛知、2015　年）、「still moving」（旧崇仁小学校、京都、2015 年）、「PAT in Kyoto　第二回京都版画トリエンナーレ 2016」（京都市美術館、京都、2016 年）、個展「髙橋耕平ー街の仮縫い、個と歩み」（兵庫県立美術館、兵庫、2016 年）、「切断してみる。ー二人の耕平」（豊田市美術館、愛知、2017　年）、「遠隔同化ー二人の耕平」（京都アートホステル　クマグスク、京都、2016-2017）、「Gather　-　群れ」（Nomart、大阪、2017）

歓迎されざる者／高嶺格
The Unwelcomed / TAKAMINE Tadasu

［インスタレーション・日本］

美術家の高嶺格は、特定の表現メディアを持たない。これまでパフォーマンス、ビデオ、インスタレーションなど多岐にわたるメディアを横断しつつ、国／性／言語などに言及する社会性の強い表現を生み出してきた。特に近年では、演出家として「KYOTO　EXPERIMENT　京都国際舞台芸術祭」で継続してパフォーマンスを発表している。本作は、ロームシアター京都ノースホールの構造を生かし、朗読というシンプルな表現を用いながら「目の前で行われている朗読が、別の時間／空間に仮想的につながる」ことを実現するため、複数の分野から技術者を招いて制作された。

協力：（株）ライゾマティクス、TYO、TYO Drive、岩田拓朗

※本作品は 1 月 25 日（木）までの展示となります。なお 1 月 14 日は 17 時から、25 日は 17 時までとなります。

高嶺格　TAKAMINE Tadasu

1968 年鹿児島県生まれ。京都市立芸術大学在学中よりダムタイプのパフォーマーとして『S/N』など 3 作品に参加。作品は、映像や音響を用いたインスタレーション、写真、映像、造形物、自ら出演／演出するパフォーマンスなど多様な表現の形をとる。在日韓国人の恋人との関係を出発点に、朝鮮人強制労働の歴史を遺す丹波マンガン記念館内坑道跡で生活し制作した《在日の恋人》（2003）。千人の鑑賞者を巻き込み京都市役所前を熱狂的なダンスフロアに変えた《ジャパン・シンドローム～ベルリン編》（2013）のパフォーマンスなど、知的な批評／皮肉とユーモアが交錯するそれらの作品は常に自らの身体や生身の人間を基点としており、共同体の中で共有しながら言語化されない、私たちと禁忌との共犯関係をあぶりだす。近年の主な個展に「とおくてよくみえない」（横浜美術館、広島市現代美術館、霧島アートの森、アイコン・ギャラリー／2011-2012）、「高嶺格のクールジャパン」（水戸芸術館現代美術ギャラリー／2012）など。

作品名の変更のお知らせ

2 階共通ロビーにて展示する津田道子の作品の作品名が以下のとおり変更になりましたのでお知らせいたします。

あなたは、翌日私に会いにそこに戻ってくるでしょうか？／津田道子
Would you come back there to see me again the following day? / TSUDA Michiko

[メディアインスタレーション・日本]

枠(フレーム)という、絵画・映像史で幾度も論じられてきたモチーフと、鏡、ビデオカメラ等を用いたインスタレーション作品。作品タイトルは、自由間接話法の典型的な英文に由来しており(ただし通常は主語が三人称)文脈により「翌日」「そこ」の対象が変わる。本来「あなたは、翌日私に会いにそこに戻ってくるでしょう。」だが、今回の展示に際して疑問形に変更している。今回、作品構成は成立しているものの、作品を設置する空間設計に作家は納得していない。その状態で展示しているのは、より広い視点から「いま」「ここ」を捉えなおせるのではないかという問いかけになるからである。作品は見えるものだけでなく、周囲の環境によって見え方が変わるものであり、どこからが作品と言い切れるものではない。作品を成立させるための構造物、すでにある建築、ここへ来た目的など、全てを含めて作品体験となる。上から吊るした枠には、鏡やスクリーンが張られたもの、枠だけのものが入り混じる。スクリーンにはリアルタイムの映像や、24 時間前の展示空間を捉えた映像が投影される。観賞者は鏡に映る像、スクリーンの映像、さらに空枠越しの実像が織りなす視線の迷宮を進み、さまざまに変化する自身と空間との関係を観察する。

※今回は事務局の責任において準備を進めたが、不完全な展示造作となり、作品の成立が十分に果たされなかったため、受賞作とは異なる疑問形をとった別タイトルの作品として展示しています。

【関連イベント】津田道子　レクチャーパフォーマンス開催のご案内

津田道子「あなたは、翌日私に会いにそこに戻ってくるでしょうか？」展示に伴い、作家本人およびダンサーによるレクチャーパフォーマンスを行います。

※すでにご案内しておりました「津田道子　トーク　＋　パフォーマンス」の内容が変更となりました。これに伴い、予約優先・定員ありのイベントとなりましたのでご注意ください。

津田道子　レクチャーパフォーマンス

日程：2018 年 1 月 28 日(日)14：30～15：30(予定)
場所：2F 共通ロビー
内容：出品作家　津田道子本人およびダンサー・振付家の福留麻里による作品空間を生かしたレクチャーパフォーマンス。
料金：無料・予約優先(定員あり)　ご予約は特設 WEB サイト(http://mediaarts-kyoto.com)をご覧ください。

お問い合わせ：ロームシアター京都　TEL.075-771-6051

■京都展全出品リスト

フロア	作品名	アーティスト	種別	文化庁メディア芸術祭受賞歴・選定歴
2階共通ロビー	あなたは、翌日私に会いにそこに戻ってくるでしょうか？	津田道子［日本］	メディアインスタレーション	第 20 回アート部門新人賞
	時折織成 -Weaving Records-	和田永［日本］	メディアインスタレーション	第 17 回アート部門審査委員会推薦作品
ピロティ（屋外）※	作品の漂流	髙橋耕平［日本］	インスタレーション	
プロムナード	Human Study, 5 Robots Named Paul (5RNP)	Patrick TRESSET［フランス］	メディアパフォーマンス	第 19 回アート部門審査委員会推薦作品
	Species series	YANG Wonbin［韓国］	メディアインスタレーション	第 16 回アート部門新人賞
	Temps mort / Idle times – dinner scene	Alex VERHAEST［ベルギー］	インタラクティブ映像インスタレーション	第 18 回アート部門審査委員会推薦作品
	Wutbürger	KASUGA (Andreas LUTZ / Christoph GRÜNBERGER)［ドイツ］	メディアインスタレーション	第 19 回アート部門審査委員会推薦作品
ノースホール（～1/25）	歓迎されざる者	高嶺格［日本］	インスタレーション	
ミュージックサロン（～1/21）	Film for imaginary music	Mikhail BASOV / Natalia BASOVA［ロシア］	映像作品	第 19 回アート部門審査委員会推薦作品
	Gill & Gill	Louis-Jack HORTON-STEPHENS［英国］	映像作品	第 19 回アート部門新人賞
	Peripheria	David COQUARD-DASSAULT［フランス］	短編アニメーション	第 20 回アニメーション部門審査委員会推薦作品
	Rhizome	Boris LABBÉ［フランス］	短編アニメーション	第 19 回アニメーション部門大賞
3階共通ロビー	新しい岸、女をめぐる断片	川島 崇志［日本］	グラフィックアート	第 18 回アート部門審査委員会推薦作品
	あなたは原発の寿命を知っていますか?	津田大介、小嶋裕一、前田豊、牛尾憲輔、松竹誠［日本］	ウェブ	第 19 回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品
	ジョジョリオン ―ジョジョの奇妙な冒険 Part8―	荒木飛呂彦［日本］	マンガ	第 17 回マンガ部門大賞
	Dark Echo	Jesse RINGROSE, Jason ENNIS［カナダ］	ゲーム	第 19 回エンターテインメント部門優秀賞
	The SKOR Codex	La Societe Anonyme［オランダ］	グラフィックアート（本）	第 17 回アート部門新人賞

※ 本作品の展示場所は当初予定していた2F共通ロビーから1Fピロティへ移動となりました。

1 月 20 日（土）、21 日（日）作品解説ツアーのご案内

会期中の 1 月 20 日(土)、21 日(日)、本展の企画制作プロジェクトチームメンバーによる作品解説ツアーを行います。お気軽にご参加ください。

作品解説ツアー

◆中谷至宏(学芸員・京都市美術館)による解説ツアー

日程:2018 年 1 月 20 日(土) 15:00～1 時間程度

場所:2F 共通ロビー

内容:中谷至宏(学芸員・京都市美術館)のご案内のもと展示空間をめぐっていただきます。

料金:無料・予約優先

◆橋本裕介(ロームシアター京都プログラムディレクター)による解説ツアー

日程:2018 年 1 月 21 日(日) 11:00～1 時間程度

場所:2F 共通ロビー

内容:橋本裕介(ロームシアター京都プログラムディレクター)の案内のもと展示空間をめぐっていただきます。

料金:無料・予約優先

広報用画像等の提供が可能です。ご希望の場合は以下までご連絡ください。
[お問合せ先] ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 担当:松本、長野
電話:075-771-6051(9:00～17:00) FAX:075-746-3366 E-mail: press@rohmtheatrekyoto.jp